

ISO/TC 8/SC 2(海洋環境保護分科委員会)担当分

議長:千田哲也氏((一財)日本船舶技術研究協会)、幹事国:米国(ANSI)

担当	規格番号	標題	標題(邦訳)	概要	制定等年月日	JIS化の状況
SC2	ISO/WD PAS 5204	Ships and marine technology — Calibration method for instruments designed to measure oil in discharge water from exhaust gas cleaning systems (EGCS) on ships	EGCSからの排水に含有されるPAHsの濃度を計測する機器の校正方法	本規格は、船上に搭載されるEGCSからの排水に含有されるPAHsの濃度を計測する機器の校正方法を規定する、また、機器の校正に使用される試験サンプルを規定する。さらに、校正のために計測されるPAHの種類を規定する。 2020年7月10日を投票期限としてNP投票が終了し、TC 8/SC 2の新規作業項目として承認された。 2020年12月9日に開催されたISO/TC 8/SC 2/WG 10(排ガス洗浄装置作業委員会)において、提案国である英国から本件の開発主旨が説明されたが、依然として初期原案が提出されていないため、早期の原案提出の必要性がWG内で共有された。	2020.07.10 NP投票承認 WD作成中	—
SC2	ISO 13073-1:2012	Ships and marine technology - Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 1: Marine environmental risk assessment method of biocidally active substances used for anti-fouling systems on ships	船舶及び海洋技術—船舶の防汚方法に関するリスク評価—第1部:船舶の防汚方法に用いる殺生物性活性物質の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される防汚システムで意図的に使われている殺生物性活性物質による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2012.08.01.	JIS F 0600-1 (IDT)
SC2	ISO 13073-2:2013	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 2: Marine environmental risk assessment method for anti-fouling systems on ships using biocidally active substances	船舶及び海洋技術—船舶の防汚方法に関するリスク評価—第2部:殺生物性活性物質を用いた船舶の防汚方法の海洋環境リスク評価法	船舶に使用される殺生物性活性物質を含む防汚システム(防汚塗料等)による潜在的悪影響から海洋環境を保護するためのリスク評価法について取り纏めたもの。【日本主導】	2013.06.01.	JIS F 0600-2 (IDT)
SC2	ISO 13073-3:2016	Ships and marine technology -- Risk assessment on anti-fouling systems on ships -- Part 3: Human Health risk assessment for the application and removal of anti-fouling systems	船舶及び海洋技術—船舶の防汚方法に関するリスク評価—第3部:殺生物性活性物質が用いられた船舶の防汚方法の塗装及び除去作業における人健康リスク評価法	船舶の防汚塗料に用いられる殺生物性活性物質によって、塗装作業者が被ばくするリスクがある場合で、同物質を含む塗料製品を用いることができると判断するためのリスク評価法について取り纏めたもの。専門家あるいはアマチュアの労働者へ与える影響の測定にこのリスク評価を用いることができる。ただし、危険及び毒性の評価のための特定の試験方法はこの規格では定めておらず、物質の使用制限等の推奨もしてはいない。【日本主導】	2016.06.01	—

SC2	ISO 13617:2001	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船 上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条 約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼 却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取り纏めた もの。	2001.11	JIS F 7011:1998 (NEQ)
SC2 (SC3から移管)	ISO 13617:2019	Ships and marine technology - Shipboard incinerators - Requirements	船舶及び海洋構造物－船 上焼却炉の要件	船舶の通常業務に伴って発生するガベージやその他の船内廃物(MARPOL条 約附属書Ⅱ又はⅢにより定義された物質で汚れた貨物関連廃物を除く。)を焼 却する焼却装置の設計、製造、性能、運転、機能及び試験について取りまとめ たもの。 改正作業に着手。SC3(配管及び機械分科委員会)から移管。 2019年7月8日を投票期限としたFDIS投票は全面賛成で可決され、同年8月に本 規格は改訂された。	2019.08	—
SC2	ISO 16165:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Terminology relating to oil spill response	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－油流出への対 応に関する用語	油流出とその管理に関する用語および定義を取り纏めたもの。 ISO/TC 8/SC 2/WG 3(油流出対応作業委員会)ハンブルク会議(2019年3月)に て、参考文献を修正する必要性が指摘された。この指摘を受け、ISO/TC 8/SC 2 京都総会(2019年5月)にて、小改訂のためのFDIS投票を実施するための決議 が採択された。 2020年3月2日を投票期限としたFDIS投票では、小改訂に関して大多数が賛成 したため、2020年4月に改訂版が発行された。	2020.04	—
SC2	ISO 16304:2018	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Arrangement and management of port waste reception facilities	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－港湾廃棄物受 入施設の配置及び管理	MARPOL条約により規制を受ける船内発生廃棄物であって港湾・ターミナルに 陸揚げされるものの管理について取り纏めたもので、港湾廃棄物管理計画 (PWMP)作成、同計画の実施及び港湾受入施設の運用においての際に考慮す べき原則や問題についても記述している。 2013年1月1日に発効したMARPOL条約改正附属書Ⅵに準拠した形で改訂を 行った。	2018.08.29.	—
SC2	ISO 16446:2013	Ships and marine technology -- Marine environmental protection -- Adaptor for joining dissimilar boom connectors	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－異種のコネク ターを備え付けたブームを 連結するためのアダプター	標準的アダプターを介して種類の異なるコネクターを備えた流出油封じ込め用 ブームの統一的な結合方法について取り纏めたもの。	2013.04.01.	—

SC2	ISO 17325-1:2014	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Oil booms -- Part 1: Design requirements	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－オイルブーム－ 第1部：設計要件	オイルフェンスの基本設計、一般的な機能、表示方法を取りまとめたもの。この規格はユーザーによる製造業者選択に役立つことを目的としており、製造業者が提供すべきオイルフェンスの材料、設計及び性能の最小限の要件を記載している。ただし、安全関係への取り組み及びオイルフェンスの操作手順は定めていない。	2014.04.18 定期見直し 投票終了 2019.09.02 確認 (現状維持)	—
SC2	ISO 17325-2:2014	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 2: Strength and performance requirements	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－オイルブーム－ 第2部：強度及び性能に関 する要求事項	ISO 17325-1に加え、オイルブームの強度及び性能要件並びに関連する試験方法を取り纏めたもの。オイルブームの使用における安全要件については記載されていない。 2020年3月2日×切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し 投票終了 2020.03.03 確認 (現状維持)	—
SC2	ISO 17325-3:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 3: End connectors	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－オイルブーム－ 第3部：エンドコネクタ	水上における油の流出を防止するためのオイルブームの連結に関する最低限の基準を取り纏めたもの。なお、配置に関する制限は設けない。	2018.09.25	—
SC2	ISO 17325-4:2018	Ships and marine technology -- marine environment protection - Oil booms -- Part 4: Auxiliary Equipments	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－オイルブーム－ 第4部：周辺器具	オイルブームの設置に必要な周辺機器の設計、配置及び適用について取り纏めたもの。	2018.09.18	—
SC2	ISO 18309:2014	Ships and marine technology -- Incinerator sizing and selection -- Guidelines	船舶及び海洋技術－船内 焼却炉の寸法及び選定－ 指針	ISO 13617の関連文書として、船内焼却炉購入の選定を助ける選定基準を取り纏めたもの。化学物質、産業廃棄物などを焼却する特別焼却船における焼却システムには適用されない。 2020年3月2日×切の定期見直し投票では、確認(現状維持)の回答が多く、改訂又は廃止の要望は無かった。	2014.10.15 定期見直し 投票終了 2020.03.03 確認 (現状維持)	—
SC2	ISO 18611-1:2014	Ships and marine technology－ Marine SCR applications－NOx reduction agent AUS 40: - Part 1: Quality requirements	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－SCR用NOx還 元剤AUS40－第1部：品質 に関する要求事項	エンジン排ガス処理のためのSCRに使用するNOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性について取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、スウェーデンのみ、改訂・追補の回答。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し 投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—

SC2	ISO 18611-2:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 2: Test methods	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第2部：試験方法	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の品質特性の決定に必要な試験方法について取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し 投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 18611-3:2014	Ships and marine technology -- Marine SCR applications -- NOx reduction agent AUS 40: - Part 3: Handling, transportation and storage	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－SCR用NOx還元剤AUS40－第3部：取扱い、輸送及び保管	NOx還元剤AUS40(尿素溶液)の取扱い、輸送及び貯蔵を最適に実施するための要求事項及び推奨事項を取り纏めるもの。 2019年12月2日×切の定期見直し投票の結果、改訂・追補の回答は無し。日本は含む大半のメンバー国は、「確認(現状維持)」の回答。	2014.10.03 定期見直し 投票終了 2019.12.02 確認(現状維持)	—
SC2	ISO 19030-1:2016	Ships and marine technology – Measurement of changes in hull and propeller performance – Part 1: General principles	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第1部：一般要件	船体及びプロペラ性能の変化の測定に関する一般事項を取り纏めるもの。本規格の目的を達成するに当たり、次の事項を規定する。 －船体及びプロペラ(水中における)性能の定義 －船体推進効率と船体への総抵抗の関連性 －船体及びプロペラ性能の変化測定時における適切な測定パラメータ －データ取得手順 －測定の不確かさの主な要因	2016.11.15	—
SC2	ISO 19030-2:2016	Ships and marine technology – Measurement of changes in hull and propeller performance – Part 2: Default method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第2部：標準手法	船体及びプロペラ効率の経時変化測定並びに基本性能指標を用いた計算の標準手法について取りまとめたもの。	2016.11.15	—
SC2	ISO 19030-3:2016	Ships and marine technology – Measurement of changes in hull and propeller performance – Part 3: Alternative method	船舶及び海洋技術－船体及びプロペラ性能変化の測定－第3部：代替手法	ISO 19030-2で取りまとめた手法を実践できない場合の代替手法について取り纏めたもの。	2016.11.15	—
SC2	ISO 20053:2017	Ships and marine technology - Marine environment protection - Guidance on design and selection of sorbents	船舶及び海洋技術－海洋環境保護－油吸着材の設計及び選定指針	水上で用いられる油吸着材の基本設計、一般的な機能等について取り纏めたもの。また、製造者から供給される油吸着材の選定基準、材料、設計及び性能についての最低要件を取り纏めている。	2017.07	—

SC2	ISO 20083-2:2019	Ships and marine technology - Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 2: Optical reflection method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第2部：光反射式軸馬力計	光源、反射版及びフォトセンサー等で構成される光学式軸馬力計の技術要件及び校正手順を取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC2	ISO 20083-3:2019	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 3: Shaft power measurement for ship propulsion system -- Part 3: Elastic strip vibration method	船舶及び海洋技術－船舶推進システムの軸出力計測－第3部：振動膜式軸馬力計	振動膜式軸馬力計の一般要件及び機器の構成並びに計測精度を決定する要素について取り纏めたもの。【日本主導】 2019年6月に正式なISO規格として制定された。また、規格制定に伴い、本件の規格開発を行ったISO/TC 8/SC 2/WG 8を休眠状態とすることが、2019年5月開催のISO/TC 8/SC 2京都総会で承認された。	2019.06	—
SC2	ISO 21070:2017	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Management and handling of shipboard garbage	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--船上ごみの管理および取り扱い	船上ごみの取り扱い、収集、分別、表示、処理および貯蔵などに関する手順をとりまとめたもの。船陸間のインターフェースおよび船から陸側の受け取り施設への運搬についても記載されている。本規格案のごみの定義はMARPOL Annex Vと同様である。 図記号についてMARPOLとの齟齬があるとの指摘を受けて、1ページの正誤表を作成した。7月31日までに発行することを6月のISO/TC 8/SC 2マルメ会議で合意した(決議262)。	2017.1	—
SC2	ISO 21072-1:2009	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 1: Moving water conditions	船舶及び海洋技術--海洋環境保護--油回収装置(オイルスキマー)の性能試験--第1部：流水条件	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの流水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 【補足】ISO/TC 8/SC 2にて、ドイツより、本ISO規格が規定する試験方法を一部の国だけが実施可能であるため、規格廃止の提案があった。SC 2メンバー間で実施されたCIB投票では、メンバーの多くが「廃止して差し支えない」と回答したが、中国のみ、国家規格に採用しているとの回答があったため、中国の意見を再確認することになった。その結果、2019年5月に開催されたISO/TC 8/SC 2京都総会において、本規格の廃止が決定した。さらに、2019年9月9日〆切で、廃止の是非を問う投票がSC 2内で実施された。この結果、賛成の回答が多数を占め、本規格は廃止された。	2009.02.15 制定 2019.09.30 廃止	—

SC2	ISO 21072-2:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 2: Light and medium viscosity oil	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－油回収装置(オ イルスキマー)の性能試験 －第2部:軽粘度及び中粘 度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、オイルスキマーの静水条件下での性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 2020年6月8日を投票期限として実施された、規格名称を「・・・第2部:軽粘度及び中粘度の油」に小改訂するための投票が承認され、同月に改訂された。	2020.06	—
SC2	ISO 21072-3:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection: performance testing of oil skimmers -- Part 3: High Velocity Oil	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－油回収装置(オ イルスキマー)の性能試験 －第3部:高粘度の油	オイルスキマーの性能をエンドユーザーが客観的に判断・比較・評価するのに資するため、高粘度の油の回収性能に関する定量的性能データを取得するための方法について取り纏めたもの。 本件を審議するISO/TC 8/SC 2/WG 3(油流出対応)にて、中国が小改訂を要望した。これに伴い、2020年8月21日を投票期限として実施されたFDIS投票が承認され、同年9月に改訂された。	2020.09	—
SC2	ISO 21716-1:2020	Ships and marine technology -- Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 1: General requirements	船舶及び海洋技術－防汚 塗料の生物検定スクリー ニング手法－第1部:一般要件	船体付着生物の越境を防ぐために船舶に使用される防汚塗料の性能評価試験の共通的な要求事項を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC2	ISO 21716-2:2020	Ships and marine technology -- Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 2: Barnacles	船舶及び海洋技術－防汚 塗料の生物検定スクリー ニング手法－第2部:フジツボ	フロールーシステムを適用して、フジツボを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC2	ISO 21716-3:2020	Ships and marine technology -- Bioassay methods for screening anti-fouling paints -Part 3: Mussels	船舶及び海洋技術－防汚 塗料の生物検定スクリー ニング手法－第3部:ムラサキ イガイ	フロールーシステムを適用して、ムラサキイガイを用いた防汚塗料の性能を評価する方法を取り纏めたもの。【日本主導】 2020年12月に制定された。	2020.12	—
SC2	ISO 21963:2020	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Tank and piping system for facilitating oily water separation on fixed offshore marine structures	海洋環境に資する油水分離 器を最適化するためのタン ク及び配管の設計	船舶、海洋プラットフォーム及び海洋構造物の運用時に発生する汚水の油水分離を最適化するためのタンク、配管及び分離システムの設計について取り纏めたもの。	2020.09	—

SC2	ISO 23048:2018	Ships and marine technology -- Verification method for portable power measurement using strain gauge	船舶及び海洋技術－ひずみ ゲージ式軸馬力計の校正 手法	燃料消費等を計測する、ひずみゲージ式軸馬力計の校正手法について規定した もの。 【補足】TC 8/SC 2ペイントン総会(2017年6月)において、本ISO規格はISO 20083-2及び-3と主旨が異なるため(※1)、シリーズではなく単独規格とするため の提案があった。この提案に伴い、本規格を単独規格とするため、番号及び名 称を変更する手続きが取られることとなった。 ISO 20083-1(現ISO 23048)は、校正手法を主眼としている一方、ISO 20083-2及 び-3は、機器そのものについて規定している。	2018.07.04	—
SC2	ISO/CD 23668	Ships and marine technology – Marine environment protection– Continuous on-board pH monitoring method	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－船上のpH連続 監視手法	エンジン排ガス中の硫黄酸化物(SO _x)を低減するための船上の排ガス洗浄シ ステム(EGCS)に使われる複合電極を用いた水素イオン濃度(pH)の連続監視 装置の性能要件及び試験方法をとりまとめたもの【日本主導】。 2019年10月19日×切で実施されたCD投票は、特段の反対なく承認された。現 在、DIS投票に向けた原案修正が行われている。	CD投票承認 2019.10.19	—
SC2	ISO/CD 23765	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Guidelines for a method of collecting ship's fuel oil consumption data	船舶及び海洋技術－船舶 の燃料油消費量データの収 集方法のためのガイドラ イン	MARPOL条約附属書 VIの22A規則の要件に従って、総トン数5,000トン以上の 船舶のデータを収集するためのガイドラインを規定する。航行距離、停泊してい ない時間、燃料油消費量の計測といったデータの収集のための実用的な手法 がこの規格において明記される。 2020年12月3日に開催されたISO/TC 8/SC 2ウェブ総会において、2021年4月1 日までにISO/CS(中央事務局)にDIS原案を提出する予定が議決された。 Resolution 290: ISO TC8/SC2 notes the status of the project of ISO 23765 is that the project leader is preparing DIS text taking into account the comments from the CD skip ballot, and to agrees to proceed ISO 23765 to DIS based on the positive result of the CD skip ballot. DIS ballot to be submitted to CS no later than 1 April 2021. この決議に基づき、プロジェクト・リーダー(韓国)から、DIS投票に付す原案が提 出された。現在、ISO/CS(中央事務局)にて、DIS投票の準備中。	CD省略投票承認 2020.05.23 DIS投票準備中	—

SC2	ISO/AWI 24132	Ships and marine technology — Design and testing of marine transfer arms for liquefied hydrogen	船舶及び海洋技術 – 液化水素用海洋トランスファーアームの設計と試験	<p>液化水素運搬船を扱う沿岸液化水素ターミナルで使用される液化水素用海洋トランスファーアーム（ローディングアーム）に関する設計、安全のための最小限の要件、検査及び試験方法について取り纏めたもの。[日本主導]</p> <p>1) TC 8/SC 2にWG 12 (Marine liquefied hydrogen transfer arms)を設置。</p> <p>2) TC 8/SC 2/WG 12アムステルダム会議 (2020.01.29-30)において、原案作成作業が行われた。</p> <p>3) 2020年7月7日 〆切で実施されたCD省略投票は、特段の反対なく賛成多数で承認された。</p> <p>4) 現在、DIS投票に付す原案を作成中である。</p>	<p>CD省略投票承認</p> <p>2020.07.07</p> <p>DIS原案作成中</p>	—
SC2	ISO/AWI 24146-1	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 1: Management and handling of shipboard waste on inland vessels	船舶及び海洋技術 – 海洋環境保護 – 第1部: 内陸航行船の船上で発生する廃棄物の管理と取り扱い	<p>内陸航行船の船上で発生するゴミの管理の手順について取り纏めている(取り扱い、収集、分別、マーキング、処置及び貯蔵)。</p> <p>原案作成作業の進捗が遅れているため、2020年12月3日に開催されたISO/TC 8/SC 2ウェブ総会において、9か月間の開発延長をISO/CS (中央事務局)に申請することが議決された。</p> <p>Resolution 293: ISO TC8/SC2 agrees to request a 9-month extension to ISO/AWI 24146-1 Ships and marine technology – Marine environment protection – Part 1: Management and handling of shipboard waste on inland navigation vessels (current DIS limit date 5/21).</p>	<p>2019.05.09 NP投票で承認</p> <p>WD作成中</p>	—
SC2	ISO/AWI 24146-2	Ships and marine technology -- Marine environment protection -- Part 2: Specifications of port reception facilities of shipboard waste from inland navigation vessels	船舶及び海洋技術 – 海洋環境保護 – 第2部: 内陸航行船の船上で発生する廃棄物のための、港湾受入施設の仕様	<p>内陸航行船の船から陸へのインターフェイス、及び船から港湾受入施設へのゴミの引き渡しについて取り纏めている。</p> <p>原案作成作業の進捗が遅れているため、2020年12月3日に開催されたISO/TC 8/SC 2ウェブ総会において、9か月間の開発延長をISO/CS (中央事務局)に申請することが議決された。</p> <p>Resolution 294: ISO TC8/SC2 agrees to request a 9-month extension to ISO/AWI 24146-2 Ships and marine technology – Marine environment protection – Part 2: Specifications of port reception facilities of shipboard waste from inland navigation vessels (DIS limit date 5/21).</p>	<p>2019.05.09 NP投票で承認</p> <p>WD作成中</p>	—

SC2	ISO/WD 24247	Ships and marine technology-- Marine environment protection-- Arrangement and management of port reception facilities in the arctic	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－極海域における 港湾受入施設の配置及び 管理	<p>極海域の航行船において発生したゴミを港湾施設が適切に取り扱うための準備すべき要件を取り纏めている。2019年6月24日×切のNP投票が終了したが、新規作業項目の承認に必要な専門家登録が不足している。</p> <p>原案作成作業の進捗が遅れているため、2020年12月3日に開催されたISO/TC 8/SC 2ウェブ総会において、9か月間の開発延長をISO/CS(中央事務局)に申請することが議決された。</p> <p>Resolution 291: ISO TC8/SC2 agrees to request a 9-month extension to ISO/WD 24247 Ships and marine technology – Marine environment protection – Arrangement and management of port reception facilities in the Arctic (current DIS limit date 11/21).</p>	2019.06.24 NP投票終了 WD作成中	—
SC2	ISO/WD 24248	Ships and marine technology-- Marine environment protection-- Management and handling of waste generated on board arctic ships	船舶及び海洋技術－海洋 環境保護－極海域航行船 において出されたゴミの管 理及び取り扱い	<p>極海域の航行船が、船上で発生したゴミを港湾施設に引き渡すまでの管理要件を取り纏めている。2019年6月24日×切のNP投票が終了したが、新規作業項目の承認に必要な専門家登録が不足している。</p> <p>原案作成作業の進捗が遅れているため、2020年12月3日に開催されたISO/TC 8/SC 2ウェブ総会において、9か月間の開発延長をISO/CS(中央事務局)に申請することが議決された。</p> <p>Resolution 292: ISO TC8/SC2 agrees to request a 9-month extension to ISO/WD 24248 Ships and marine technology – Marine environment protection – Management and handling of waste generated on board Arctic ships (current DIS limit date 11/21).</p>	2019.06.24 NP投票終了 WD作成中	—